

福生市議会議長 乙津 豊彦 様

横田基地対策特別委員会  
委員長 末次 和夫

平成 26 年度福生市議会横田基地対策特別委員会 行政視察報告

本委員会は、平成 26 年度行政視察を次の通り実施しましたので、報告いたします。

1. 視察日程

平成 26 年 6 月 25 日（水）～26 日（木）

2. 視察先

- (1) 京都府舞鶴市
- (2) 海上自衛隊舞鶴基地

3. 視察項目

- (1) 舞鶴市における基地関連施設等の概要について
- (2) 自衛隊舞鶴基地の市及び市民への影響等について
- (3) 市民との交流等について
- (4) 市民への情報提供及び安全対策について

4. 視察参加者

・横田基地対策特別委員会

委員長 末次 和夫

副委員長 町田 成司

委員 田村 正秋、田村 昌巳、奥富 喜一、杉山 行男  
清水 義朋、堀 雄一郎、柳川 英司、五十嵐みさ

・議長 乙津 豊彦

・議会事務局 田野倉純男、島田基美香



## 1. 市の概要



面積	342.39km <sup>2</sup>
人口	85,793人（平成26年3月1日現在）
世帯数	35,203世帯（ ” ” ）
市制施行	昭和18年5月27日

舞鶴市は京都府の北東に位置し、日本海の若狭湾に湾口を開いた舞鶴港は、波静かな天然の良港を形成している。また、市域のうち平野のほとんどは河川流域で、平野面積は非常に少なく、大部分が山々と丘陵からなっており、河川は市域西部を縦貫する由良川のほか、中小河川が市内各地を流れている。

海と共に歩み発展してきた舞鶴市の歴史は、約1万年以上前まで遡り、市域には多くの遺跡が点在している。16世紀末には細川幽斎（藤孝）・忠興親子が田辺城を築いて以来、西地区は城下町として発展し、東地区は明治34年（1901年）に海軍鎮守府が設置され、旧帝国海軍の軍都として発展した。鎮守府の初代長官は、日露戦争の日本海海戦でバルチック艦隊を破った東郷平八郎である。

昭和13年（1938年）に西地区は舞鶴市として、東地区は東舞鶴市として、それぞれ市制を施行。昭和18年（1943年）に両市が合併し、その後、昭和32年に加佐町を編入し、現在の舞鶴市となっている。

戦後、舞鶴港は「岸壁の母」の舞台となるなど、大陸からの引揚者やシベリヤで抑留されていた約60万人の人たちが、母国の土を踏んだ港として知られており、昭和27年（1952年）に保安庁警備隊発足と同時に舞鶴地方隊が開設され、昭和29年（1952年）に海上自衛隊発足した。

主な産業としては、造船業、窯業（ガラス）、木材業などで、経済規模は北近畿最大の2700億円規模となっている。平成23年度からは、「東アジアに躍動する国際港湾、交易都市 舞鶴」を目標とする都市像を掲げ、日本海側拠点港として、国内はもとより、中国、韓国、ロシアなどの諸外国との経済交流、観光振興に積極的に取り組んでいる。

## 2. 視察概要

### (1) 舞鶴市における基地関連施設等の概要について



#### ①基地の沿革について

##### ・旧海軍時代

明治34年(1901)	舞鶴鎮守府開庁
大正12年(1923)	鎮守府から要港部に規模縮小
昭和14年(1939)	鎮守府に復活
昭和20年(1945)	終戦、鎮守府廃止

##### ・戦後

昭和27年(1952)	海上警備隊舞鶴地方隊總監部発足
昭和29年(1954)	海上自衛隊発足
平成13年(2001)	ヘリコプター基地開港

#### ②海上自衛隊の部隊等の概要

- ・基地の面積 259万㎡ (市域の0.75%)
- ・隊員数 約3,700人(市人口の4.1%)

##### 舞鶴地方隊

警備区域	秋田県～島根県の日本海側一帯
部隊編成	第44掃海隊、舞鶴教育隊、舞鶴警備隊 等

##### 舞鶴在籍部隊

第3護衛隊群(第3護衛隊・第7護衛隊)、補給艦ましゅう、第23航空隊、第4術科学校等から編成

#### ③近年の基地施設・活動の動向について

- ・平成14年度から 護衛艦「はるな」等の東インド洋へ派遣
- ・平成18年度 イージス艦「あたご」の配備
- ・平成19年度 舞鶴航空分遣隊が舞鶴航空隊に改変  
第3護衛隊群等の護衛隊の改変
- ・平成20年度 補給艦「ましゅう」のインド洋補給支援活動

- ・平成 21 年度 哨戒ヘリ S H—60K 配備
- ・平成 21 年度 護衛艦「すずなみ」他、インド洋補給支援活動  
護衛艦「あまぎり」のアデン湾海賊対処活動
- ・平成 22 年度 東日本大震災への災害支援活動（1000 名以上）
- ・平成 24 年度 護衛艦「みょうこう」のミサイル防衛対応

#### ④基地施設の整備状況について

- ・大浜地区・・・燃料貯蔵所棧橋整備
- ・長浜地区・・・弾薬整備施設改修
- ・北吸地区・・・一部施設移転



#### ⑤基地の集約化について

- ・平成 4 年に市と舞鶴地方総監、大阪防衛施設局長との三者間で、基地の集約化を含む、ヘリ基地設置の覚書を締結。
- ・平成 8 年に防衛庁（当時）が基地集約化の具体策として、移転先を発表。
- ・平成 22 年に土地の確認手続きが完了。
- \* 今後、移転経費の予算確保等の課題があり、実現までにはなお相当の期間がかかるものと予想される。

### (2) 自衛隊舞鶴基地の市及び市民への影響等について

#### 舞鶴市の防衛補助について

##### ①民生安定助成事業（8 条）

- ・平成 23 年度 97,681,000 円  
事業 — 配水池、消防ポンプ自動車、漁場
- ・平成 24 年度 39,272,000 円  
事業 — し尿処理施設、浄水場、漁場

\* 平成 20 年度～22 年度は、体育館、コミュニティセンター、廃棄物処分場、道路、救急車、消防ポンプ自動車、配水池、漁場等の多くの事業で、3 年間の補助合計金額 20 億 9481 万円

②特定防衛施設周辺整備調整交付金（9条）

- ・平成23年度 172,214,000円  
事業 — 給水設備、消防ポンプ車、道路、橋梁、給食施設、  
清掃事務所管理費
- ・平成24年度 182,698,000円  
事業 — 消防ポンプ自動車、空気呼吸器、道路、学校施設  
ゴミ処理施設、公園

\*平成20年度～22年度の3年間は、毎年1億5千万円前後の交付金。

③防衛施設周辺整備統合事業

（仮称）赤れんがパーク整備事業

- ・平成22年度 241,464,000円
- ・平成23年度 349,464,000円

\*平成19年度～平成23年度までの5年間にわたる事業で、事業補助合計金額は9億223万4千円。

④基地交付金（国有提供施設等所在市町村助成交付金）

- ・平成25年度 162,697,000円
- ・平成26年度 163,237,000円

⑤地元への経済効果について（総監部決算額及び契約状況について）

単位：億円

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
舞鶴地方総監部決算額	377	346	428	372
舞鶴地区決算額	377	346	428	372
舞鶴地区人件費	237	231	232	217
舞鶴地区物件費	137	112	193	154
舞鶴地区契約状況	艦船修理 91%	艦船修理 92%	艦船修理 94%	艦船修理 93%
	工事 98%	工事 75%	工事 79%	工事 65%
	糧食 76%	糧食 85%	糧食 86%	糧食 74%
	その他 38%	その他 21%	その他 44%	その他 48%

- \* 防衛補助を福生市と比較すると、基地交付金の約 10 分 1 以外はほぼ同じ補助額。
- ・また、舞鶴海上自衛隊の人員費を含む総予算は、舞鶴市の一般会計予算とほぼ同じ 360 億円を超えおり、隊員 3,700 人の市民税や地元造船業・建設、土木業、食材店など雇用を含めた地元への経済効果は、航空自衛隊横田基地と米軍横田基地を合わせた福生市と比べ、はるかに高い。

### (3) 市民との交流について

- ①市との共催による年 2 回の音楽隊による定期演奏会
- ・人気があり、1500 人の会場は常に満席となる。

②基地施設の市民開放

- ・グラウンド、プール：隊員とほぼ同様の利用ができる。
- ・海軍記念館、棧橋：土日、祝日



③観光支援、交流イベント

- ・毎年 7 月に行われる「海の祭典」等
- \* 自衛隊員及び家族を含めた人口は約 1 万人弱で、市の人口の約 12% を占めており、多くの隊員、家族は地域に溶け込み、舞鶴市民として生活している。

### (4) 市民への情報提供及び安全対策について

- ・自衛隊と行政、市民との関係は良好であり、市民への情報提供に特段の問題はない。
- ・以前は艦船の油漏れ事故などあったが、現在は特段の問題はない。

### 海上自衛隊に係る舞鶴市の基本姿勢

「基本構想」2011 策定の「まちづくりを進める上での枠組み及び配慮すべき事項」において、「海上自衛隊など国・府等機関との共存のもと、さらに連携・協力を強化し、今後のまちづくりを推進する」旨を明記しており、これを基本に各種施策を推進している。

おわりに

福生市を含む5市1町にまたがり所在する横田基地は、以前より米空軍基地として在日米軍司令部及び第五空軍司令部が置かれています。平成17年からの在日米軍再編計画にともない、平成24年に航空自衛隊航空総隊司令部及び関連部隊が横田飛行場に移駐してきました。そこで、今回は、自衛隊基地がある自治体に焦点を合わせ、防衛補助の現状や諸課題についての調査研究を行うため、戦前から旧日本海軍の軍都として栄え、戦後の早い時期に海上自衛隊が発足した舞鶴市を行政視察先としました。

舞鶴市の防衛補助を見ますと、米軍基地がない事もあり、基地交付金は福生市の10分の1位ですが、その他の補助はほぼ同程度でした。経済効果については、平成24年度の舞鶴海上自衛隊の地区人件費と地区物件費（艦船修理、工事、糧食など）を見ますと、総予算372億円の多くが地元還元されており、雇用を含めた舞鶴市経済の大きな柱の一つであることが理解できました。当面、基地施設の集約化の予算確保等の課題はありますが、軍用機等の騒音問題もなく、広い行政面積の中で経済効果をはじめ、すべてがうまく循環しており、舞鶴市民と海上自衛隊は、まさに運命共同体だと感じました。

翻って横田基地を抱える福生市の現状を見ますと、今のところ航空自衛隊には取り立てた問題はありませんが、米軍横田基地は以前よりの騒音問題をはじめとするいくつかの課題があり、地元への経済効果の面でも舞鶴市と比べ格段の低さです。

基地と共に歩まなければならない福生市の将来を考えたとき、今後一層、国へ補助を求めていかなければと改めて思いました。

最後に、定例会中にもかかわらず2日間にわたりお世話になりました舞鶴市役所の職員の方々に感謝申し上げ、行政視察報告とさせていただきます。

